



国際子ども図書館 学校図書館セット貸出し ヨーロッパセット 小学校低学年向

このセットに含まれる本のリストと内容紹介です。

学校での本の紹介や展示、学校図書館での選書などにご利用下さい。

No	書名	出版社	出版年	請求記号	関連国・地域
1	イギリスとアイルランドの昔話	福音館書店	1981	Y9-M98-139	—
2	チムとゆうかんなせんちょうさん	福音館書店	2001	Y18-N01-235	イギリス
3	ピーターラビットのおはなし	福音館書店	2002	Y9-N02-212	イギリス
4	ねむりひめ	福音館書店	1963	児943-cG86nS	ドイツ
5	ねっこぼっこ	平凡社	2005	Y18-N05-H262	ドイツ
6	もじやもじやペーター	ほるぷ出版	1985	Y18-1451	ドイツ
7	黒い島のひみつ	福音館書店	1983	Y16-6518	ベルギー
8	大雪	岩波書店	1992	Y18-7498	イスラエル
9	いちばんたいせつなもの	福音館書店	2007	Y9-N07-H141	東欧
10	なまけものの王さまとかしこい王女のお話	徳間書店	2001	Y9-N01-116	オーストリア
11	ラチとらいおん	福音館書店	1965	Y17-47	ハンガリー
12	りんごのき	福音館書店	1972	Y17-3724	チェコ
13	長い長いお医者さんの話	岩波書店	2000	Y7-N00-45	チェコ
14	もぐらとずぼん	福音館書店	1967	Y17-276	チェコ
15	ぞうのバーレル	評論社	1988	Y18-3886	フランス
16	おそうじをおぼえたがらないりすのゲルラング	福音館書店	1973	Y17-4076	フランス
17	きつねのルナール	福音館書店	2002	Y9-N02-168	フランス
18	げんきなマドレーヌ	福音館書店	1972	Y17-3889	フランス
19	フィーンシェのあかいキックボード	BL出版	2000	Y18-N01-420	オランダ
20	イップとヤネケ	岩波書店	2004	Y9-N04-H277	オランダ
21	ポルコさまちえぱなし	岩波書店	1964	Y7-78	スペイン
22	子どもに語るイタリアの昔話	こぐま社	2003	Y9-N04-H91	イタリア
23	神の道化師	ほるぷ出版	1980	Y17-7397	イタリア
24	りこうなおきさき	岩波書店	1963	児933-cG25r	ルーマニア
25	メルヘン・アルファベット	ネット武蔵野	2005	Y18-N05-H129	ロシア
26	しずかなかおはなし	福音館書店	1963	Y17-10	ロシア
27	てぶくろ：ウクライナ民話	福音館書店	1965	Y17-62	ウクライナ
28	子どもに語る北欧の昔話	こぐま社	2001	Y9-N02-188	北欧
29	ゆきとトナカイのうた	ボプラ社	2001	Y18-N01-495	北欧
30	さびしがりやのクリニット	講談社	1991	Y18-5754	フィンランド
31	きみどこへゆくの？	徳間書店	2005	Y6-N05-H82	スウェーデン
32	せかいにバーレただひとり	偕成社	1978	Y7-6863	デンマーク
33	しずくのぼうけん	福音館書店	1969	Y17-514	ポーランド
34	千びきのうさぎと牧童	岩波書店	1972	Y7-3499	ポーランド
35	Сказка о золотом петушке (ロシア語)	Vagrius	1999	Y17-B2383	ロシア
36	Vem ska trosta knytte? (スウェーデン語) (さびしがりやのクリニット)	Schildts	1999	Y17-B2897	フィンランド
37	I numeri (イタリア語) (英語)	Corraini editore	1997	Y17-A2566	イタリア
38	Histoire de Babar, le petit éléphant (フランス語) (ぞうのバーレル)	Hachette	2006	Y17-B8585	フランス
39	The tale of Peter Rabbit (英語) (ピーターラビットのおはなし)	F. Warne	1995	Y17-A4627	イギリス
40	Der Struwwelpeter oder lustige Geschichten und drollige Bilder (ドイツ語) (もじやもじやペーター)	Insel Verlag	2006	Y17-B8446	ドイツ
41	Laci és az oroszlán (ハンガリー語) (ラチとらいおん)	Móra	2003	Y17-B3508	ハンガリー



International Library of Children's Literature

国立国会図書館 国際子ども図書館

1. イギリスとアイルランドの昔話

石井桃子 編・訳；J.D.バトン 画

福音館書店 1981年

ジョーゼフ・ジェイコブスの編集・再話を中心としたイギリスの昔話 22編と、アイルランドの昔話 8編を集めた昔話集。子どもたちがよく知っている「三びきの子ブタ」をはじめ、ゆかいな話や少し怖い話、小人や妖精が出て来る話など、さまざまなタイプの話が入っている。語り（ストーリーテリング）のテキストとしてよく使われており、耳から聞いて楽しめる文章なので、子どもたちには読み聞かせるとよいだろう。

2. チムとゆうかんなせんちょうさん

エドワード・アーディゾーニ 作；せたていじ 訳

福音館書店 2001年

イギリスの海辺の町に暮らすチム少年は、船乗りになりたくてたまらず、出航直前の船に忍び込む。洋上で密航者としてつかまってしまうが、船員の手伝いをするうちに、いつしか船乗りとして認められる。勢いのある線画と渋い色彩の絵により、船での暮らしが生き生きと描きだされる。海の色は、冷たいイギリスの海を思わせる深い緑がかった青色。続編に『チムとルーシーとかいぞく』『チム、ジンジャーをたすける』等全11巻が出版されている。

3. ピーターラビットのおはなし

ビアトリクス・ポター さく・え；いしいももこ やく

福音館書店 1971年

The tale of Peter Rabbit (英語) (資料 No.39)

Beatrix Potter

F. Warne 1995

イギリスで出版されてから100年以上を経た今も、世界中の子どもたちを魅了しているいたずらなうさぎピーターのお話。マクレガーさんの畠にもぐりこんだピーターは、マクレガーさんに見つかってしまい、命からがら脱出する。著者のビアトリクス・ポターは、少女時代から田園を愛し、小動物の観察やスケッチに没頭した。そのため、ポターが描く小動物は、かわいらしいだけでなく、動きもリアルに再現されており、とても生き生きとしている。対応する英語資料はNo.39。

4. ねむりひめ

グリム 著；フェリックス・ホフマン 絵；せたていじ 訳

福音館書店 1965年

グリム童話の有名な昔話を、スイスの画家ホフマンが繊細なタッチと良く練られた構図で描く。王さまが小さな姫を守る姿の表紙絵と、錘(つむ)が焼かれる場面とを比較したり、いばらの生い茂る城の絵から塔の中に隠れた姿を探したりするのも面白い。階段状に進んでいくと、百年も眠り続けていた姫に辿り着く王子の姿など、物語を読み解く絵本としても興味深い。大型絵本なので、読み聞かせにも向く。

5. ねっこぼっこ

ジビュレ・フォン・オルファース 作；秦理絵子 訳

平凡社 2005年

1906年の出版以来、1世紀以上に渡り子どもたちから愛され続けてきたドイツの古典絵本。ねっこぼっこ（直訳すると「根っここの子どもたち」）は、春の訪れと共に土の中で目覚め、色とりどりの花の服を身にまとい、外の世界へと出て行く。輝かしい夏を謳歌し、やがて木枯らしが吹き始めると、大地の母さんのふところに戻り、再び春が廻り来るまでの間、土の中で安らかに眠る。擬人化された植物の四季に、喜びと安らぎに彩られた幸せな子どもの日々のイメージが重なる。詩的で美しい訳文は、音読することによって耳にいっそう心地よく響く。作者のオルファースは1916年に34歳の若さ

でこの世を去ったが、彼女のどの作品もドイツ古典絵本の傑作として今も読み継がれている。

6. もじやもじやペーター

ハインリッヒ・ホフマン さく；ささきたづこ やく
ほるぷ出版 1985年

Der Struwwelpeter oder lustige Geschichten und drollige Bilder (ドイツ語) (資料 No.40)

Heinrich Hoffmann
Insel Verlag 1985

1845年にドイツで出版されて以来、ヨーロッパ圏内ののみならず、世界中の子どもたちから愛され続けている古典的絵本。ドイツの子どもはみなこの本を読んで育つ、と言っても過言ではない。一見すると「少々刺激の強すぎる」教育的絵本のようにも見えるが、いたずら心いっぱいのありのままの子どもの姿が、デフォルメされた素朴な線画で描かれており、不思議と子どもたちの心をとらえてはなさない。表題作はじめ、軽快な韻文の10編の作品からなる。

7. 黒い島のひみつ

エルジェ 作；川口恵子 訳
福音館書店 1983年

少年記者タンタンが愛犬スノーウィと共にアメリカ、アフリカ、アジア、北極、果ては月までも駆け巡る「タンタンの冒険旅行」シリーズ日本語版の第1巻。1929年、ベルギーの新聞記者エルジェによって生み出されたタンタンは、フランス語圏であるベルギー、フランスという枠をこえ、50以上の言語に翻訳され、世界の子どもたちに愛され続けている。『黒い島のひみつ』の舞台はスコットランド。ニセ札偽造団を追うタンタンはスコットランド沖の黒い島へと向かう。

8. 大雪

ゼリーナ・ヘンツ 文；アロワ・カリジェ 絵；生野幸吉 訳
岩波書店 1992年

スイスの山村を舞台に、子どもたちの生活が生き生きと描かれた絵本。スイス中東部の山村で生まれたアロイス（アロワ）・カリジェは、画家の道へと進むうち、ゼリーナ・ヘンツと出会う。この2人の共同作業でつくられた『ウルスリのすず』、『フルリーナと山の鳥』、『大雪』は、スイスの豊かな自然を表現しながら、子どもたちの遊び、習慣などを伝えるものとなっている。

9. いちばんたいせつなもの

八百板洋子 編・訳；ルディ・スコチル 画
福音館書店 2007年

バルカン地域に位置するブルガリア、ルーマニア、スロベニア、クロアチア、セルビア、アルバニア、マケドニア、トルコ、ギリシアの昔話全29話を収録した昔話集。オリエントとヨーロッパの文化が混じりあうバルカン地域は、変化に富んだ昔話の宝庫である。本書には、原資料を翻訳した話のほか、著者自らが現地で採録した話が10話を含めている。スロベニア生まれの画家ルディ・スコチルの挿絵は、バルカンの雰囲気をよく伝えている。

10. なまけものの王さまとかしこい王女のお話

ミラ・ローベ 作；ズージ・ヴァイグル 絵；佐々木田鶴子 訳
徳間書店 2001年

ナニモセン五世という、食べることと眠ることが大好きな王様が病気になる。娘のピンピは、大好きなパパに再び元気をとりもどすために、羊飼いのおじいさんが教えてくれた方法を試そうと知恵をめぐらせるが……。ともすれば説教くさくなる「自分のことより人が先」という考え方、ユーモアあふれるお話を伝える。食文化が豊かなオーストリアならではの、豪奢なご馳走の数々も魅力的。作者

のミラ・ローべは、数々の国際的な賞を受賞したオーストリアの作家。

11. ラチとらいおん

マレーク・ベロニカ 文・絵；とくながやすもと 訳

福音館書店 1965年

Laci es az oroszlan (ハンガリー語) (資料 No.41)

Marek Veronika

Mora Konyvkiado 2003

弱虫な男の子ラチのところに、ある日小さな赤いらいおんが現れる。らいおんに励まされながら、ラチは次第に強い男の子になっていくが、やがてらいおんがラチのもとを去る日がやってくる。邦訳されてから40年以上読み継がれているハンガリーの創作絵本。版型が小さいので読み聞かせに使う場合は少人数で行うとよい。

12. りんごのき

エドアルド・ペチシカ 文；うちだりさこ やく；ヘレナ・ズマトリーコバー え

福音館書店 1972年

小さな男の子マルチンが庭のりんごの木に実がなるまでの1年間をとても楽しみに過ごす様子を描いた、季節感のあるチェコの創作絵本。漢字の使われていない平易な訳文、色調の柔らかい絵、子どもたちの小さな手にしつくり収まるほどよい版型なので、思い思いに手にとって見たり、友だちと一緒に覗き込んだりして楽しんでほしい。

13. 長い長いお医者さんの話

カレル・チャペック 作；中野好夫 訳

岩波書店 2000年

チェコを代表する国民的作家カレル・チャペックによる童話集。チェコでは1931年に出版されている。「長い長いお医者さんの話」や「郵便屋さんの話」など楽しいおとぎ話9編を収録。挿絵は、画家としても有名な兄のヨゼフ・チャペックで、線画で描かれた人物の表情が愉快で楽しい。カレル・チャペックの文学作品は、戯曲、随筆、旅行記など多岐にわたり、代表作『R.U.R.』や『山椒魚戦争』はSFの古典とされている。またチェコ語の労働を意味する言葉から作った「ロボット」という言葉は世界中に定着した。

14. もぐらとずぼん

エドアルド・ペチシカ 文；ズデネック・ミレル 絵；うちだりさこ 訳

福音館書店 1973年

もぐらが「大きなポケットがついた青いズボンがほしい」と一途に思っていると、亜麻草が「いようとおりにすればできる」と教えてくれた。もぐらが、亜麻を育てると、蛙が亜麻の茎を水に浸し、コウノトリが茎を折り曲げ、ハリネズミが梳き、蜘蛛が糸を紡いでくれた。青いコケモモが糸を染め、蟻が布を織り、エビガニ（ザリガニ）が布を裁ち、ヨシキリが布を縫ってくれ、青いズボンが完成する。文章が多いので、読みきかせより、じっくり読む方が向く。

15. ぞうのババール

ジャン・ド・ブリュノフ さく；やがわすみこ やく

評論社 1988年

Histoire de Babar, le petit elephant (フランス語) (資料 No.38)

Jean de Brunhoff

Hachette 1939

70年以上読み継がれているフランスの創作絵本。ぞうのババールは、お母さんを亡くし、狩人に追われて、やっとのことで町にたどり着く。そこで一人の優しいおばあさんと出会い、洋服を着たり、

車の運転を覚えたりと、人間のような生活を始める。他に『ババールのしんこんりょこう』などがシリーズで出版されている。息子のロラン・ド・ブリュノフが書き継いだ続編もある。

16. おそうじをおぼえたがらないりすのゲルラング

ジャンヌ・ロッシュ＝マゾン 著；山口智子 絵；堀内誠一 訳

福音館書店 1973年

子リスのゲルランデは、自分のきれいで立派なしっぽを汚すのがいやでおそうじを覚えようとしないので、おばあさんリスに追い出されてしまう。オオカミに食べられそうになつても、おそうじだけは覚えないと強情を張るゲルラングに、オオカミやキツネ、アナグマたちはほとほと困り果ててしまい……。フランスの創作幼年童話。続編に『けっこんをしたがらないリスのゲルラング』がある。

17. きつねのルナール

レオポルド・ショヴォー 著；山脇百合子 絵；瀬田貞二 訳

福音館書店 2002年

12世紀後半のフランスで、僧侶や多くの書き手によって作りあげられた動物叙事詩。きつねのルナールは、自分と家族の食料確保のために日々獲物を探す。ライバルの狼や山猫とは、一見協力体制を築きながらも、すきあらば出し抜かんとし、食料となる小動物や人間とも騙しあいを続ける様を生き生きと描き出す。中世のベストセラーであるこの作品は、次々と続編が作られ、後世の作品にも多大な影響を与えた。巻末には、中世の本作りの様子を含む詳しい解説が掲載されている。

18. げんきなマドレーヌ

ルドヴィッヒ・ベーメルマンス 著；瀬田貞二 訳

福音館書店 1972年

フランス・パリの古い寄宿舎に住む12人の女の子の愉快なお話。なかでも一番小さなマドレーヌはとてもお転婆で、ねずみも怖くないし、スキーもスケートも得意です。そんなマドレーヌに異変が起こります。お話の中にパリの名所が描かれている。アメリカ生まれの絵本。

19. フィーンチエのあかいキックボード

ペツツィー・バックス 著；のざかえつこ 絵

BL出版 2000年

シュツ、シュツ、シューン。赤いキックボードに乗って颯爽と街中を走り抜ける少女フィーンチエ。運河にかかる橋で買い物袋をさげたおじさんにぶつかり、荷物はバラバラに。拾い忘れたクッキーの袋を届けるため、フィーンチエはおじさんを追いかける。オランダの首都アムステルダムは水の都として有名。市内には160本以上の運河があり、1,300近くの橋がかかっているという。本書では、そんなオランダのとある街の様子を随所に見ることができる。

20. イップとヤネケ

アニー・M.G.シュミット 著；フィープ・ヴェステンドルフ 絵；西村由美 訳

岩波書店 2004年

オランダに住む子どもたちアップとヤネケの日常を描いた創作幼年童話。原作は、1952年からオランダの新聞の子どもコーナーに連載されていたお話で、「オランダの家庭にこの本のない子ども部屋はない」と言われるくらい今でもオランダ中で読み継がれている。本書は、オランダ語の原作約240話のうち42話を選んで訳出したもの。新聞連載であったために、白黒の影絵で描かれた挿絵が印象的である。著者のシュミットは国際アンデルセン賞をはじめ数々の賞に輝いている。

21. ポルコさまちえばなし

R.ディヴィス 文；F.アイヘンバーグ 絵；瀬田貞二 訳

岩波書店 1964年

スペインを旅行中のアメリカ人の著者が、道中で知り合いになったスペイン人のおばあさんから聞いた昔話をまとめたおはなし集。けものを治めるブタのポルコさまは、人間とけものの間に入ってさまざまな事件を解決する。心優しいポルコさまの見事な采配に人間も動物も納得する。「人間の言葉を話す犬の話」など9つのお話を収録。

22. 子どもに語るイタリアの昔話

剣持弘子 訳・再話
こぐま社 2003年

地中海に囲まれ、外国との行き来が船を中心になされてきたイタリアでは、オリエント（東方）の香り漂う昔話が数多く語り継がれている。本書では、19世紀の民話資料集と新しい民話資料集の中から、陽気で人情味にあふれるイタリアの昔話15編を収録。特にこれまで紹介されることの少なかつた、小さい子どもたちでも楽しめるお話を収録されており、語りや読み聞かせに向く。

23. 神の道化師

トミー・デ・パオラ さく；ゆあさふみえ やく
ほるぷ出版 1980年

何でもお手玉のように回せる少年ジョバンニは、旅芸人の一座に入り、得意の芸で大勢の人々を喜ばせた。しかしやがて、年老いたジョバンニの芸に人々は足を止めなくなった。ジョバンニはクリスマスの日にふるさとの教会に辿り着き、イエス像の前でもう一度芸を披露する。素朴なキリスト教信仰を下敷きに、道化師の一生を描くイタリアを舞台にした昔話。

24. りこうなおきさき

モーゼス・ガスター 文；光吉夏弥 訳；太田大八 絵
岩波書店 1963年

ルーマニアで長く語り継がれてきた昔話13話を集めた昔話集。本のタイトルにもなっている「りこうなおきさき」は、大臣の娘が王様の出す難しい問題を次々に解決していくという、機知にあふれた謎解きが楽しいお話。読み聞かせに向き、図書館のお話会などで素話（ストーリーテリング）として語られることも多い。ルビがしっかりとふられているので、子どもたちにとっても読みやすい。

25. メルヘン・アルファベット

タチヤーナ・マーヴリナ 作；田中友子 訳・文
ネット武蔵野 2005年

ロシア語キリル文字のアルファベット33文字に、ロシアの昔話の主人公や場面が色鮮やかに描きこまれたABC絵本。巻末には各昔話のあらすじが付されている。作者は『ロシアの昔話』（福音館書店、1989）の挿絵も手がけた国際アンデルセン賞受賞画家、マーヴリナである。本書は高度な印刷技術を持つモスクワ造幣局で印刷された原本を忠実に再現しているため、美術的な価値も高い。キリル文字に親しめるだけでなく、ロシアの豊かな文化に興味を持つきっかけともなる1冊。

26. しずかなおはなし

サムイル・マルシャーク 文；ウラジミル・レーべデフ 絵
うちだりさこ 訳
福音館書店 1963年

夜、散歩に出かけたハリネズミの親子がオオカミに遭遇する。ロシア絵本の黄金コンビと言われる2人の後期の作品。革命後のロシアでは、子どもたちの教育のためと識字率をあげるために多くの絵本が出版された。初期には、既成の芸術を否定した斬新でデザイン的な絵本が出版されたが、その後のスターリンの独裁政治下で、社会主义リアリズムがすべての芸術の表現方法として規定され、レーべデフも本書のような叙情的なスタイルに画風を変えた。この絵本には、新たなレーべデフの魅力があふれている。また、詩人でもあるマルシャークの文を内田莉莎子が思わず声に出したくなるような

文体で翻訳した。

27. てぶくろ

エフグーニ・M.ラチョフ 絵；うちだりさこ 訳

福音館書店 1965年

1965年に日本で翻訳出版されて以来、多くの子どもたちから愛され続けているウクライナの昔話絵本。おじいさんが落としていった片方だけの手袋に、動物たちが次々と住みついていくというシンプルなお話。降り積もる雪や空の色の移り変わりが示す時の経過、手袋が少しずつ住み心地よいように工夫されていく様子など、絵のすみずみまでじっくりと楽しんでもらいたい。柔らかな温もりのあるラチョフの絵からは、動物たちの毛皮の感触まで伝わってきそうである。

28. 子どもに語る北欧の昔話

福井信子、湯沢朱実 編訳

こぐま社 2001年

北風に粉をさらわれた男の子が、北風のもとに取り返しに行き、粉の代わりにご馳走を出してくれるテーブルかけをもらう「北風をたずねていった男の子」他、北欧5か国の昔話15話を収録。

29. ゆきとトナカイのうた

ボディル・ハグブリンク 作・絵；山内清子 訳

ポプラ社 2001年

スカンジナビア半島からロシア領にかけての北極圏の一帯をラップランドと呼び、ここにはサーメ語を使う人々であるサーメが住んでいる。この地域に住むサーメの主人公マリット・インガの生活を通して、トナカイを育てその群れと行動を共にするというサーメの伝統的なくらしの様子を知ることができる。ノルウェーの絵本。

30. さびしがりやのクニット

トーベ・ヤンソン 作・絵；渡部翠 訳

講談社 1991年

Vem ska trosta knyttet? (スウェーデン語) (資料 No.36)

Tove Jansson

Schildts Forlag 1999

小さな家に住む小さなトロールのクニットは、ひとりぼっちでさびしくて旅に出る。クニットはびんに入った手紙を拾い、送り主のスクルットをなぐさめるために勇気を出して冒険をする。フィンランドの作家トーベ=ヤンソンが書いたムーミンのシリーズは世界中で読まれている。1960年に発表された本書はムーミン絵本の2冊目で、他に『それからどうなるの?』(講談社)、『ムーミン谷へのふしげな旅』(講談社)がある。著者は国際アンデルセン賞をはじめ多くの賞を受賞している。

31. きみどこへゆくの？－スウェーデンの子どものうた－

アリス・テグネール 作詞・作曲；エルサ・ベスコフ 絵；ゆもとかずみ 訳詞

徳間書房 2005年

「スウェーデンの子どもの歌の母」と呼ばれるアリス・テグネール作の歌に、同国を代表する絵本作家エルサ・ベスコフが絵を添えた歌の絵本。スウェーデンで今も歌われている曲を中心に、全12曲を収録。全曲楽譜付。太陽が沈まぬ北欧の夏至や、クリスマスの風習、豊かな自然の中で暮らす子どもたちの姿が、歌詞や絵を通じて生き生きと伝わってくる。1922年の刊行以来、世代をこえてスウェーデンで愛され続けている絵本の初邦訳。

32. せかいにパレただひとり

イェンス・シースゴール さく；アルネ・ウンガーマン え；やまのべいすず やく

偕成社 1978年

ある朝目を覚ますと、パレは世界でただ1人になっていた。お父さんもお母さんも、町の人もいない。パレはお店のお菓子を食べたり、バスを運転したり、やりたい放題。でも1人ではつまらなくなつて……。

33. しづくのぼうけん

マリア・テルリコフスカ さく；うちだりさこ やく；ボフダン・ブテンコ え
福音館書店 1969年

水滴の「しづく」が旅をする話。言葉のリズムも良く、水の性質を知ることもできる。ポーランドの絵本。

34. 千びきのうさぎと牧童

ポラジンスカ 文；内田莉莎子 訳；M.ブィリーナ 絵
岩波書店 1972年

ポーランドの昔話集。ポーランドの民間伝承を研究し、昔話やわらべうたなど多くの作品を書きのこしたポランジスカの昔話集から、7つの話を選び、翻訳したもの。表題の「千びきのうさぎと牧童」は、通りすがりの老人に親切を施した心優しい若者が、老人から授けられた3つの贈り物を用いて殿さまが命じた課題をやり遂げ、さらには自分自身の機知によって幸福をつかむという話。挿絵もポーランド人の画家による。

35. Сказка о золотом петушке (ロシア語) 金の鶏

Александр Пушкин Ольга Монина
Bагриус 1999

昔話にもとづく物語詩。ロシア近代文学の父と呼ばれるプーシキンの作品。四方から攻めてくる敵国に悩まされていたダドン王は、星占いの老人から金の鶏を授かる。この鶏を塔の上に置けば、争いや災いが近づくとその方角を教えてくれるという。ダドン王は老人の望みを何でも叶えると約束する。しかし、女王がほしいと望んだ老人を王は殺してしまい、塔の上に置いた金の鶏につつかれ王も命を落とす。

36. Vem ska trosta knyttet? (スウェーデン語)

Tove Jansson
Schildts Forlag 1999
資料 No.30 『さびしがりやのクニット』に対応する外国語資料。

37. I numeri (イタリア語) (英語) すうじ

Luigi Veronesi Corraini editore c1997

イタリアのグラフィックデザイナーによる数字を知るための絵本。イタリア語と英語でテキストが書かれている。指と色、さまざまな形を用いて0から10までの数字を表している。白地に指の写真、黒字に鮮やかな色彩の図形がある。1945年に子どもの本としては初めて写真が使われた。

38. Histoire de Babar, le petit elephant (フランス語)

Jean de Brunhoff
Hachette 1939
資料 No.15 『ぞうのババール』に対応する外国語資料。

39. The tale of Peter Rabbit (英語)

Beatrix Potter
F. Warne 1995
資料 No.3 『ピーターラビットのおはなし』に対応する外国語資料。

40. Der Struwwelpeter oder lustige Geschichten und drollige Bilder (ドイツ語)

Heinrich Hoffmann

Insel Verlag 1985

資料 No.6『もじやもじやペーター』に対応する外国語資料。

41. Laci es az oroszlan (ハンガリー語)

Marek Veronika

Mora Konyvkiado 2003

資料 No.11『ラチとらいおん』に対応する外国語資料。

国立国会図書館 国際子ども図書館
児童サービス課 児童サービス企画係
URL : <http://www.kodomo.go.jp/>